

新保育所保育指針で「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ園の保育の内容について評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」ことが明記されています。よって本所ではこれに基づき自己評価について公表します。

評価日：令和8年1月23日 対象者60名

自己評価結果	評価基準	
A	85%以上	よくできている
B	65%以上	できている
C	45%	検討が必要

評価項目	結果	取り組み状況
理念・基本方針の確立、周知	A	同和保育所としての設立の主旨、「保育目標」や「めざす子ども像」が重要事項説明書等に明記され、職員、保護者に周知されている。また、保育の中で大切にしていることをこどもの姿と共にホームページに掲載し、広く周知している。
事業計画の適切な策定	A	所内会議で計画、振り返りを共有することで、事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。
福祉人材の確保・育成計画	B	職場体験の中学生や保育実習生を積極的に受け入れ、保育の魅力を感じていただけるように努めた。保育実習生に対しての指導内容がより統一されるように、保育所内で研修を行っていく必要がある。
地域との交流	B	未就園児対象の子育て広場を定期的実施しており、回を重ねるごとに参加者が増加したが、年度当初の参加者が少なかったため、広報の仕方を工夫する必要がある。 近隣の小学校、こども園との交流や図書館でのお話会、身近な地域文化である染め物体験等、新たな交流を増やすことができたが、地域の高齢者の方と交流をもつことが少なかった。
子どもの人権を尊重した保育	A	人権を尊重した保育を推進するために、所内研修や会議の中で、職員自身の思いを伝え合う機会を大切にしたい。今年度は草津市人権同和教育研究大会でのレポート提案から、こどもへの関わり、保育者の人権感覚についてそれぞれが振り返り、職員の人権感覚がこどもに大きな影響を与えることを再確認する機会となった。また、保護者に対しても講演会や人権絵本の取り組みの中で、ともに学び合える関係づくりに努めた。
保育内容の充実	A	研究テーマを「心を動かし、遊び込める環境や支援の在り方を探る」とし、所内公開保育の中で、こどもたちが夢中になって遊び込み、継続した遊びとなるための保育者の意図的・計画的な環境について、こどもの遊びを見取り、語り合うことで保育環境の充実につなげることができた。

次年度への取り組み

- ・核家族が多く、祖父母との関わりが少なくなっているため、近隣の会館の高齢者の催しに参加させていただき、交流できるよう計画を進めていく。
- ・未就園児対象の子育て広場の参加者がさらに増えるように、年度当初の広報を充実させていく。

総評

全体的に「A」評価が多かったが、福祉人材の確保・育成については昨年度に引き続き「B」評価となった。保育士不足が社会的な問題となっている今、職場体験の中学生に保育の魅力を感じていただき、将来の職業選択のきっかけになるように働きかけることを引き続き行っていきたい。

また、地域との交流については、新たな取り組みを増やすことができた。高齢者の方との交流については、来年度、近隣の会館と連携して定期的な交流が行えるように計画を立てていきたい。草津第二保育所が大切にしているこどもの人権を尊重した保育を推進するために、職員間も気付きを伝え合いながら、より良い保育の実践に努めていきたい。